

この人に 会いました



左上から 南雲 さえ子さん・細矢 智子さん
左下から 笛田 茂作さん・高野 智さん

湯沢温泉総合案内所の皆さんにお話をうかがいます。所長の笛田さんに自己紹介とスタッフの御紹介をお願いします。

湯沢温泉総合案内所の皆さん

笛田茂作 55歳、滝沢在住、湯沢温泉観光協会担当です。昭和56年より湯沢温泉観光協会職員に採用され今年で30年になります。主な仕事として湯沢地区の夏まつりと雪まつりを担当しております。

高野智副所長。旅館組合事務担当、中子在住。湯沢温泉旅館組合職員に採用され今年で27年のベテランです。旅館の遷を一番よく知る生き字引的存在です。案内所のムードメーカーであり、まとめ役としても頑張っています。

意外にも、感動的なTVを見ると、号泣する感受性の強い女の子に变身。南雲さえ子。総合案内所事務担当。滝ノ又出身、五日町在住。湯沢温泉旅館組合職員に採用され今年で17年になります。案内所全般の経

理を担当しているので経費削減に目を光らせ、案内所の収入向上のため、いつも色々なアイデアを考えています。趣味は温泉巡りで、お客様にも解り易く説明できるので、趣味と仕事に相まって一石二鳥。

細矢智子。民宿組合事務担当。南魚沼市中子在住。平成20年に採用され、今年3年目を迎える案内所若手ナンバー1のホープです。色々な業種に精通しており、今年4月に立ち上げる旅行業においても総合旅行業務取扱管理者の資格が役立ちました。今後、力を発揮してもらい、良い企画商品を期待しています。

東日本大地震の日、300名ものお客様が並んだと聞きました

新幹線がストップし、電話が通じなくなり、駅の階段までお客様が並び、お客様がいても宿と連絡がとれず、歩いて民宿へ空室を聞きまわりました。旅館からは、係員を案内所に待機させるなど、手配に協力頂きました。電話の通じない中での手配は案内所開設以来初めての事でした。

日頃、感じている事は

お客様が、翌日、案内所に立

ち寄り「良い宿を紹介してくれて、ありがとう。」と言ってくださる方がいらつしゃいます。その時は、本当に嬉しいですね。逆に苦情を頂く事もあります。誠意を持って、対応する様に務めています。これからの、課題ともなりますが、湯沢の観光に携わるすべての人達が、『おもてなしの心』を持って接すればきっと「湯沢にきてよかつた。また来よう。」と思つて頂けると思いますので、心がけて良い町作りをしていきましょう。

今後の取組みなどは

これからは、『着地型旅行商品』の開発をし、お客様のニーズにあつた商品作りを力を入れるべく、第三種旅行業の認可を受けました。案内所も4月に改装し、大々的に商品開発を行つていく予定です。町民の皆さまどうぞ案内所に足を運んで頂きたいと思ひます。

★インタビューを終えて

『おもてなし』の最前線で、笑顔で奮闘している湯沢の観光戦士達でした。今後も観光立町湯沢の顔として、頑張つていってくださることでしょう。

広報常任委員会 柿崎直治
宮田眞理子

編集 後記

絆

「きずな」

「東日本大震災に想う」

「東日本大震災」の被災者受け入れの動きは全国の自治体に広がり、湯沢町でも、当面の対策として福島原発事故の被災者を中心に1千人の被災者を受け入れ良好な住生活環境を提供している。スキーをはじめとする観光客の客足はパタリと止まり、スキー場もシーズン途中での営業を止めざるを得ない状況も発生し、宿泊施設や商店においても開店休業状態が続く、湯沢の地域経済に大打撃を与えている。

一日も早く、この風評被害から脱却するために地域の経済復興に向けた対策を打ち出し実践しなければ、観光を基幹産業とするわが町の存亡も危惧される。

国も福島原発事故の影響を受け、原子力発電に頼る電気供給システムを見直し、水力発電に頼らなければならぬ時代がやってくるはずである。水源の町としての利点を生かし、その動向にどう対応し、どのような町を創るべきかを、新たに制定された「湯沢町まちづくり基本条例」の精神に基づき行政、議会、町民が協働というパートナーシップを築き、真剣に議論しなければならぬ。

広報委員 南雲 正

広報委員会

- 委員長 柿崎直治
- 副委員長 森下昌次
- 南雲和夫・南雲 正・田村正幸・宮田眞理子

編集

湯沢町議会
広報常任委員会